

★龍馬と歩くプレミアムツアー★

長崎・中島川の橋めぐり



驚きとロマンがいっぱいの中島川の橋や
ダムを坂本龍馬がナビゲイト！！

わしが案内するぜよ！



長崎はたくさんの観光客で賑わう街！な
かでも眼鏡橋は人気スポットじゃ。

街の中央を流れる中島川には眼鏡橋
以外にも色々な橋があって、調べてみると
面白い発見がたくさんあったぜよ！！

ツアー案内人：坂本龍馬

※本紙における「中島川」は上流の支流である一ノ瀬川や西山川も含みます。

Ryoma Sakamoto

坂本龍馬

(さかもと りょうま)

太陽暦1836（天保6）年生まれ、
1867（慶応3）年没。
2020年2月1日この世に蘇る。



坂本龍馬は、封建時代の江戸時代から、近代国家を目指す
明治維新、特に薩長同盟の仲介、徳川家から天皇への大政
奉還の提起など、日本を回天させた立役者。

亀山社中、海援隊結成の中心人物で、海軍の訓練、銃器
の購入・販売など貿易を手掛け、日本初の株式会社をつくった。

龍馬は1867年、京都・近江屋で暗殺され、明治維新が成し遂げられる前に無念の死。日本の生まれ変わりをあれほど願った龍馬だったが、近代化の姿を見ることはできなかった。

…あれから150年余。明治、大正、昭和、平成と世は移り、そして令和2年、龍馬は蘇った。

かつて通いなれた長崎街道を辿り、今、西の箱根と呼ばれた日見峠に立っている。眼下に広がる懐かしい長崎。街はすっかり変わっている。「長崎の町は橋と共に発展した」と岡林隆敏長崎大学名誉教授。

さあ、龍馬と共に、日見峠から中島川沿いに、出島まで「橋めぐり・プレミアムツアー」に出かけよう。

※本誌では、坂本龍馬の台詞はピンクの枠で囲っています。（龍馬の話し方はイメージです。）なお、下線が引いてある語句については、本誌末尾に用語解説を記載しています。

「肥前長崎図」 享和2（1802）年の長崎勝山町文錦堂版「肥前長崎図」をアートポスターとして復刻したものの。



※橋の分類

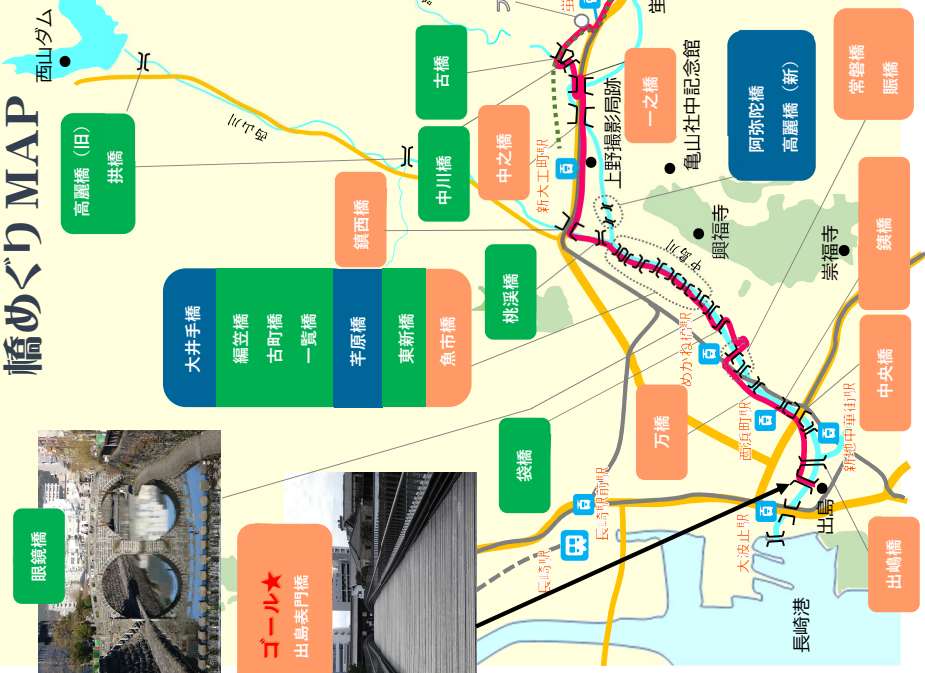
橋めぐりMAP



眼鏡橋



ゴール★
出島表門橋



古橋への行き方

ファミリーマートの階段を上って、道なりに進みます。



こここの階段を上る

橋めぐりツアーのコース
 旧長崎街道 (駅は主要な所のみ表示) JR 長崎線
 路面電車



この道を道なりに進む

スタート地点★
本河内低部堰堤放水路橋

本河内低部ダムと放水路橋への行き方

蛭茶屋駅そばのファミリーマートを左手にし、歩道沿いを道なりに行き止まりまで7分程歩く。右手にある本河内本河内水原池公園入口から入り、奥まで進む。

長崎街道最後の難所の日見峠は「西の箱根」^[1]とよばれておって、まこと急な坂の多い峠で、わしも息を切らしながら登ったものじゃ^[2]。この峠を下って、長崎の市街を見下ろすと、眼下に街並みや外国船が出入りする港が見え、この町から日本の夜明けが始まると心躍ったものじゃ。長崎はわしの希望の街じゃった^[3]！

この日見峠には、明治になって新しく道ができて、馬車も通れるようになったらしいが、なんと通行料の必要な有料道路じゃったらしい^[4]。今ではこの辺りも大分様変わりして、トンネルが二つできておるが、わしは旧日見トンネルの入口のデザインが好きじゃのう。

日見峠と旧日見トンネル



1 長崎街道最後の難関であった日見峠（この付近に関所があった）

この峠に道ができたのは1568（永禄11）年。それまで長崎から江戸へは、長崎港から船で向かっていたが、その後、1650年頃より日見街道「長崎街道」が整備されはじめると、この日見峠を越えて多くの人々がこの道を往来した。シーボルトやオランダ商館の人々、龍馬とともに勝海舟ら、象やラクダまでもが、この峠を越え江戸へ向かったようである^[5]。



2 日見新道（明治新道）の説明板

明治時代になり、日見峠に当時莫大な費用をかけた新道が旧長崎街道に建設され、人力車や馬車などが通行できるようになった。33メートル切り下げた峠の工事は当時最大級で、5年間通行料がとられていた。わが国初の有料道路といわれる。



3旧日見トンネル入り口（東側の入口） 写真（3,4）提供：長崎河川国道事務所

1926（大正15）年に開通した旧日見トンネルは、日本が自動車交通時代を迎えた初期の日本最大級の道路トンネル（延長642m、幅7.4m）であり、日本の道路トンネル技術史においても貴重な構造物である^[6]。

坑口上部は横断方向に歯飾り（デンテル）で装飾されている^[7]。国の登録有形文化財に指定。

4入口の坑門の柱

壁柱（ピラスター）には彫刻が施されており、大正期の様式を色濃く残したデザインとなっている^[7]。



52020年2月20日現在の長崎港

（長崎港松が枝国際ターミナルビル口より撮影）

おっと、お待たせしたのう！

それでは旧日見トンネルからほど近い本河内低部ダムから、一緒に歩いてみるかのう？

スタート★

いざ、出発じゃ！！

アクセス：

Hongouchi-teibuenntei-housuirokyoui

路面電車『蛍茶屋』より徒歩 10 分

※通常は一般公開されていません。

本河内低部堰堤放水路橋

(ほんごうちていぶえんていほうすいろきょう)

日本最古の鉄筋コンクリート橋ぞよ！



低部堰堤放水路橋

日本初の RC 橋。外壁には、大きな三角飾りがあり、放水路の水階段が非常に美しい水景観を造っている。

- 完成：1903（明治 36）年 1 月
- 橋の長さ：12.5m ●径間：12.5m
- 形式：RC 充腹アーチ（メラン式）
- 設計監督者：吉村長策^[1]

本河内低部ダムは本河内水源池公園から入ると奥の方に見えるぜよ。ここからさらに高い位置に、日本最古の近代水道ダムである、本河内高部ダムもある。

低部ダムを正面にして、右手奥の階段を登ると、国道 34 号線の高架線下に、放水路橋がフェンス越し見える。実はその橋、わが国最初の鉄筋コンクリート（RC）橋といわれておるんじゃ。中島川には、他にもわが国初の石橋と鉄橋があるのには驚くばかりじゃ！まさに長崎の中島川は日本の橋のルーツの川ぜよ！

本河内低部ダム



第一次長崎水道拡張事業にて、中島川の支流の上流にある西山ダムと共に建設された、1903（明治 36）年完成の日本で 2 番目に造られた重力式コンクリート造ダム^[2]。（日本初のは 1900（明治 33）年完成の神戸市の五本松ダムとされる^[3]。）

日本初のダム—本河内高部ダム—

日本最古のダムは長崎にあるぜよ！

鎖国時代から日本唯一の開港地であった長崎は、海外文化の流入で文化水準の高い街となっていた。しかしその一方で、コレラや赤痢などの伝染病が猛威をふるい、全国的にも多数の死者が出たため、公衆衛生の向上のための水道設備の必要性が提唱された。

このような背景があり、横浜、函館に続いて、わが国3番目の近代水道施設が、この地に建設された^[4]。

旧本河内高部ダムは、先駆的土木技術を駆使した我が国最初期の近代水道用ダムといえる。満々と水をたたえるその美しい景観は、当時流行歌ができるほど人々の人気を集め、新たな長崎名所の一つとなり、休日には整理券を発行するほど賑わいを見せたといわれる^[5]。2017（平成29）年には、本河内水源地水道施設（高部及び低部堰堤、高部配水池）が、**国の重要文化財**に指定されている^[6]。



1 本河内高部ダム（旧）

1891年（明治24）完成。日本最古の近代水道ダムで長崎市を代表する近代土木遺産である。

- 高さ：18.15m ●長さ：127.27m
- 種類：[アースダム](#)
- 設計監督者：吉村長策^[7]



2 本河内高部ダム（新）の堤体

写真提供：安河内 孝氏

1982（昭和57年）7月の長崎大水害を契機に新規ダムが、既存の上水道用ダム上流に築堤された^[8]。

一の瀬橋



ということで、一の瀬橋からじゃ。来た道を戻ると、左手に見えるぜよ。

わしも昔、日見峠を越え、この石橋を渡って長崎の町に入ったぜよ。当時蛍茶屋は賑わっておった。懐かしいのう。

- ・1653（承応2）年、唐大通事の陳道隆が私財を投じ架設^[1]。
- ・日見峠を下り、旧長崎街道の通る、長崎の町に入る玄関口であり、一ノ瀬川に架かる橋^[2]。石橋が架かる以前は、木橋もなく、飛石沿いに渡っていたが、増水時は、何日も対岸へ渡ることができなかったという^[3]。
- ・橋脚保護の工事はされているが、流失記録はなくほぼ旧態を留めており、一ノ瀬口（蛍茶屋跡と一の瀬橋のあたり）は長崎市指定史跡となっている^[4]。
- ・長さ：13.5m 幅：4.8m^[5]

蛍茶屋跡の石碑



1804～1829頃、旅人歓送迎の茶屋が始められ、幕末から明治初期、二代目政吉の頃が最盛期となった^[6]。蛍の名所であったことから蛍茶屋とよばれた。明治期に市内で流行した長崎民謡の「長崎甚句」は、蛍茶屋にて長崎街道を旅立つ者との別れの情を歌ったものとなっている^[7]。

古橋



蛍茶屋駅まで戻って、ファミリーマートの脇の階段を登っていき、道なりに進むと古橋じゃ。古橋は長崎市で最小の石橋じゃ。

- 1654（承応3）年、唐通事の林守壁（りんしゅへい 帰化名は林仁兵衛、崇福寺の有力檀家）が私費を投じ架設^[1]。
- 旧長崎街道が通る^[2]、鳴滝川に架かる橋。
- 明治時代になって人力車や荷車等が通行できるようにするため高欄、こうらん おやぼしら 親柱を埋め込んで上方約1mかさ上げされている^[3]。
- 崩落、流失の記録なし^[4]。
- 長崎市指定有形文化財^[5]
- 長さ：7.6m 幅：2.8m^[6]

中川橋



お隣の中川橋は、大正時代の橋で当時は既に鉄筋コンクリートによる橋に建設が進んでいたが、長崎市の出入口ということであえて石橋として建設されたんじゃ^[4]。

- 1918（大正7）年に自動車交通に対応することを目的として新たに建設された^[1]。
- 高欄とアーチに白い石材を使用し、白黒（花崗岩と安山岩^[2]）のコントラストを演出するなど、近代的なデザインに特色がみられる。
- 国登録有形文化財
- 長さ：14m 幅：7.9m^[3]

国道34号線に架かっている一之橋・中之橋・鎮西橋は「長崎国際産業観光博覧会」をきっかけに造られた旧国道25号線の道路建設に伴い長崎市へ入るゲートとして1934(昭和9)年に架設された、昭和初期の鉄筋コンクリート橋じゃ。

この3橋は、現在でもほとんど損傷がなく建設当時の姿を留めており、大戦前のコンクリート施工技術の優秀さを示す構造物となっており、国指定の登録有形文化財になっておるぜよ^[1]。

一之橋

写真提供(親柱・アーチ下面):
長崎河川国道事務所



一之橋



親柱



アーチ下面

- ・スパンドレル(側壁部分のところ)に空間をとる開腹アーチ橋で、川筋に対し僅かに斜行した放物線アーチが技術の高さを示す^[2]。3mもある、花崗岩張りの重厚な親柱(頂部に照明付き)と高欄も見応えがあり、長崎の近代化を物語る^[3]。

・国登録有形文化財

- ・長さ:16m 幅:36m^[4]

- ・長崎市へ入る時の最初の橋であるので「一之橋」と命名された。^[5]

中之橋



中之橋



親柱

写真提供（親柱・アーチ下面）：
長崎河川国道事務所



アーチ下面

- ・川筋に対し大きく斜行し、橋長が上下流で異なる形状をなだらかな楕円形アーチでまとめる。単純なデザインの親柱（頂部に照明付き）と高欄が優雅な印象を強調している^[5]。
- ・国登録有形文化財・長さ：25m 幅：37m^[6]

鎮西橋



鎮西橋



親柱

写真提供（親柱・高欄部分）：
長崎河川国道事務所

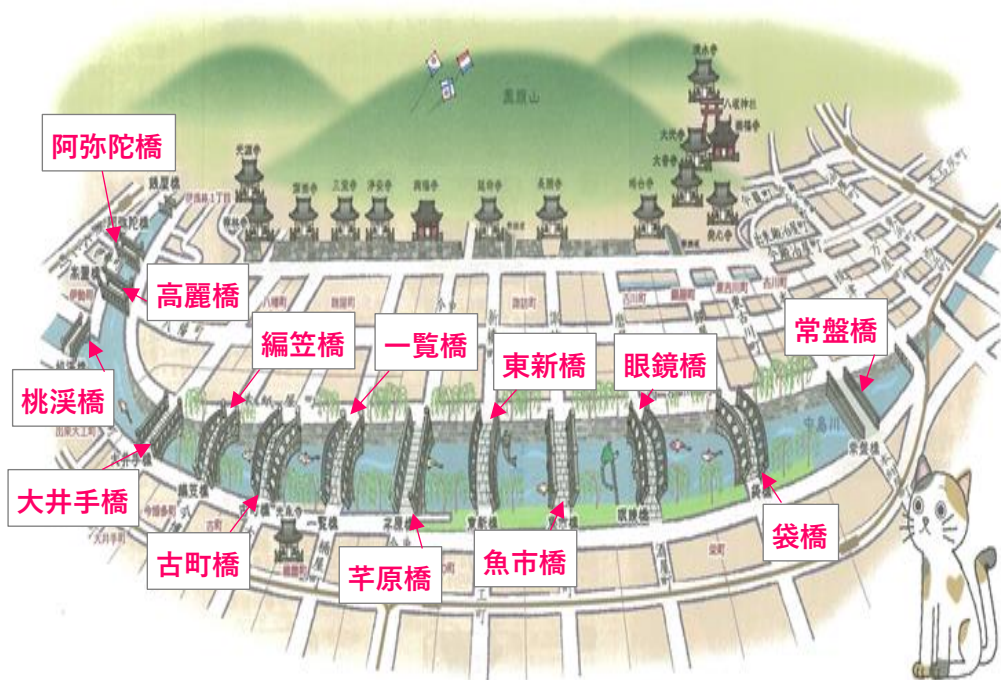


高欄部分

- ・充複半円形アーチ橋で、外観は石張りで伝統形式の石橋風に仕上げる^[7]。
- ・親柱（頂部に照明付き）は石燈籠風、高欄は伝統的な木橋を模したデザインで、当時としては最高の装飾が施されており、近くの諏訪神社と景観が調和している^[8]。
- ・意匠設計は武田^{ごいち}五一による^[9]。
- ・国登録有形文化財・長さ：13m 幅：40m^[10]
- ・鎮西大社諏訪神社の前にあるので「鎮西橋」と命名された。

ここから先より下流までは、石橋が密集しておって、まさに絵になる風景じゃ。川沿いに歩道も整備されておるので、ゆっくり橋を見られるぜよ。

ここで少し中島川の石橋の歴史を紹介するぜよ。



「中島川寺町おさんぽマップ」 眼鏡橋近くの「まちぶら案内所」配布パンフレットより

長崎の「母なる川」 中島川に架かる石橋群

長崎は石橋の街、石橋文化発祥の地じゃ！

鎖国が続いた江戸時代、唯一の貿易港とされていた長崎には外国から多くの文化が入ってきた。当時、外国船からの荷揚げは、港で小船に積みかえ、街の中心部を流れる中島川を遡ってから陸揚げされていた。中島川周辺は商家が建て混む賑やかな町で、その頃の中島川には木橋や木廊橋（屋根付きの木橋）が架かっていたが、劣化しやすく、増水時に破損しやすく、人々は困っていたという^[1]。

そのような背景の中で、日本最初となるアーチ式の石橋「眼鏡橋」が中島川に架けられ、これ以降、江戸時代前期から中期にかけて、わずか65年の間に20もの石橋が中島川（本河内低部ダム付近から長崎港付近までの約3.3kmの間）には架けられ、密集した石橋の景観を誇っていた。石橋は江戸時代には高価なもので、大名でさえ城下に1,2基しか架けられなかったが、中島川の石橋は、唐の僧や（中国及び日本人の）商人など、個人の財力によって競うように造られたものであり、当時の長崎の繁栄ぶりを物語っている^[2]。

一方、川の流域面積が小さく、斜面の多い長崎では洪水が起こりやすい地形となっており^[3]、3度の洪水（1678、1721、1795～1796年に起きた洪水）により石橋が流失し、その度に石橋が再架設（3度目の洪水以降からは公費により架設）され^[4]、上流の本河内、西山ダムが建設されて以降洪水被害は減少したものの、1982（昭和57）年の長崎大水害では当期中島川に架けられていた14の石橋のうち6橋の全部が全壊した。損壊はあったものの全部流失を免れたのは、桃溪橋、眼鏡橋、袋橋であったが、石橋として原型にまで修復されている^[5]。

災害復旧の際には、洪水対策として、長崎県は川底の掘削と川の拡幅工事、それに伴う半壊した石橋群の撤去と石橋のあった場所に近代様式の橋を架設する提案を行ったが、地元住民による文化的財産としての石橋の保存の訴えの声が強くなり、県は方針を変更。川の両側にバイパス水路を作ることによって川の拡幅による氾濫防止と石橋群の保存・再生を両立させる形となった^[6]。

中島川本流の分岐部近くにある桃溪橋から袋橋にかけての橋は、生活の橋でもあるため、中には、実用的な車道用の鉄筋コンクリート橋もあるが、どれも眼鏡橋を中心とした石橋の風景に調和したつくりのものとなっており、長崎の観光名所となっている。

中島川の石橋の架設年表

(山口祐造著『石橋物語<上巻>』)を参考に作成。中国出身の架設者は、本人または祖先の出身が中国である。

架設年	橋名	架設者（出身国）	現状
1634	眼鏡橋	もくすによじょう 黙子如定（中国）	修復され現存している
1650	大手橋（堂門橋）	こういちらん 高一覧（中国）	アーチ部分のみ保存 ^[1]
1651	南石橋（玉帯橋）	馬場利重（日本、長崎奉行）	茂木新道工事のため撤去 ^[2]
1652	高麗橋	不明	RC橋で再架設（石橋は西山川上流へ移設）
1653	一の瀬橋	ちんどうりゅう 陳道隆（中国）	流失の記録なく、現存
1654	なかごぼし 中川橋（現・古橋）	りんしゅでん 林守堅（中国）	明治期にかさ上げし、現存
1655 頃	袋町橋	不明	修復され現存している
1657	一覧橋	高一覧（中国）	「昭和の石橋」として再架設
1666	榎津町橋	がこうさい 何高材（中国）	現在の賑橋
1673	東新橋	不明	「昭和の石橋」として再架設
1673	新橋	不明	不明
1678	萬屋橋	金屋喜右衛門（日本）	現在の万橋
1679	桃溪橋	ぼくいおしょう ト意和尚（中国）	修復され現存している
1679	古川町橋	ましえん 魏之琰（中国）	現在の常磐橋
1681	すずきはら 芋原橋	不明	石張りRC橋として再架設
1690	阿弥陀橋	ぜんじ 園山善爾（日本）	石張りRC橋として再架設
1697	古町橋	かむらりょう 河村妙了（日本）	「昭和の石橋」として再架設
1698	大井手橋	岡正敏（日本）	石張りRC橋として再架設
1699	編笠橋	岸村氏夫妻（日本）	「昭和の石橋」として再架設
1699	魚市橋	岡正恒（日本）	RC橋として再架設

中国人による架橋の理由として、社会福祉、権力の誇示（唐通事同士の競争意識）、身内の供養などの説がある^[3]。また橋名は、江戸期は町名などをつけて呼ばれたりしていたが各々一定のものではなく、1882（明治 15）年に、[西道仙](#)によって現在の橋名に命名された^[4]。

では、次は桃溪橋じゃ。それから下流に下っていくぜよ。

Momotanibashi

桃溪橋

(ももたにばし)

アクセス：路面電車『新大工町』から徒歩

風情があるのう・・・



橋面

石貼りが施されている

桃溪橋（石橋・車道）

長崎市指定有形文化財

●形式：石造り単アーチ式（車道）



唐船安全祈願塔

かっぱらしき石像が置かれている。

1679（延宝7）年僧ト^{ぼくい}意が、浄財を集めて架橋したといわれる。

橋の名は、堂門川（西山川の昔の呼称）の川端に多くの桃の木があったことに由来するといわれる^[1]。

橋下に下りてみると、上流右手奥に高麗橋（新）と左手奥に鎮西橋も見え、川のせせらぎと豊かな緑と石橋のある風景に心が和む。

橋のそばには、唐船の安全を祈願した唐船安全祈願塔が建っている。昔は唐船から下ろされた荷物を積んだ小舟がこの辺りまで上り、荷下ろししていたのだとか^[2]。

架設後より流失記録がなく^[3]、昭和57年7月の長崎大水害により半壊したが、流失を免れ、みごとに復元されている。幅員は約3.5メートルと狭いが、車も通行している^[4]。

大井手橋・編笠橋・古町橋・一覽橋・芋原・東新橋・魚市橋

中島川の合流部から上流は洪水で流失した記録がないが、下流の大井手橋から魚市橋にかけての橋は、洪水で幾度か架け替えられ、1982年の長崎大水害では、魚市橋以外全て流された。

編笠橋、古町橋、一覽橋、東新橋の4つは「昭和の石橋」として架け替えられたが^[1]、増水時の川の流れを妨げないよう、水害時の水位よりも高い位置に架橋する必要があり、流された橋よりも持ち上がりの大きい太鼓橋となっており、歩きやすいように手すり付きの階段がついておる^[2]。

また、魚市橋を除く6橋は、長崎の石橋の特色となっておる、平行布積の壁石・石貼り橋面(路面)・装飾された高欄(擬宝珠付き)をもっておる^[3]。大井手橋、芋原橋については、太鼓橋にしてしまうと、車が走れないので、まっすぐな橋面の鉄筋コンクリート橋となったのだが^[4]、石橋風の加工がしており、この中島川の石橋群にうまく馴染んでおるのう。

大井手橋



・初代(石橋)は1698(元禄11)年、岡正敏が私財を投じ架設^[5]。

・西山川と一ノ瀬川の合流地で水流の強い場所であり、現在まで4回(1740<石橋>、1804<石橋>、1911<石橋>、1986年<RCの車道橋>架け替えられている^[6]^[7]。

- ・橋の名は「長崎ぶらぶら節」の中に登場する^[8]。
- ・唐津市小十の安山岩こじゅうを使用した石貼りを施している^[9]。

編笠橋



・初代（石橋）は1699年（元禄12）年に豪商であった岸村氏夫妻が架設^[10]。

・現在に至るまで2回（石橋として1802、1986<年に）架け替えられており、長崎大水害後も石橋となっている^[11] ^[12]。

・諫早市小長井町帆崎の安山岩

を使用している^[13]。

古町橋

・初代は1697年（元禄10年）12月に豪商であった河村嘉兵衛とその母・妙了によって私費で架設^[14]。

・現在に至るまで3回（石橋として1739、1803、1986年に）架け替えられており、長崎大水害後も石橋となっている^[15] ^[16]。

・唐津市小十の安山岩を使用している^[17]。



手すり付き階段

一覽橋



・初代は 1657 年に唐通事で豪商であり、鎮西橋のすぐ上流の大手橋（堂門橋）を私財で架けた高一覽が、寄付を募って架設^[18]。

・現在に至るまで 2 回（石橋として 1801、1986 年に）架け替えられており、長崎大水害後

も石橋となっている^[19]^[20]。

・中国福州市の花崗岩を使用している^[21]。

すすきはら 芋原橋



・初代石橋が 1681（延宝 9）年に架設（架設者不明。中国系の人かと考えられている）^[22]。

・現在に至るまで 3 回（石橋として 1721、1804、1986 年 RC の車道としてに）架け替えられている^[23]^[24]。

・唐津市菅^{すが}牟^む田^たの石材を使用

した石貼りを施している^[25]。

・橋名は、このあたりは草が生い茂ったところであったことから、西道仙により名付けられた^[26]。

東新橋



- ・初代石橋が1673（寛文13）年に架設（架設者不明）^[27]。
- ・現在に至るまで3回（石橋として1681、1800、1986年に）架け替えられており、長崎大水害後も石橋となっている^[28]^[29]。

・唐津市なしがわを使用している^[30]。

魚市橋



- ・初代石橋が1699（元禄12）年岡正恒（岡正敏の兄）が私費で架設^[31]。
- ・現在に至るまで5回（1750<石橋>、1800<石橋>、1903<石橋>、1925<鉄橋>、2006年<RC橋>に）架け替えられており^[32]^[33]、2006年（平成18

年）には拡幅工事（4m→9m）が行われた。

Meganebashi

眼鏡橋

(めがねばし)

アクセス：路面電車『めがね橋』で徒歩1分

眼鏡橋は日本の石橋のルーツぜよ！！



眼鏡橋

1634（寛永11）年完成。1647（正保4）年の洪水で損壊するが翌年、平戸^{こうむ}好夢によって修復される。1960（昭和35）年、国の重要文化財に指定されている^[1]。

●橋の長さ：23m ●幅：4.7m ●高さ：5m^[2] ●形式：石造り2連アーチ式（歩道）

眼鏡橋は我が国で初めてつくられた石橋じゃ！

『日本橋』『錦帯橋』と並び日本三名橋に数えられるんじゃ^[3]。

川面に映った影が双円を描き、その姿が眼鏡の形にみえるので、眼鏡橋と呼ばれておる。

眼鏡橋は 1634(寛永 11)年に黙子如定もくすにじょう禅師によって架けられたん
じゃ。石橋の技術を中国大陸より伝えてくれたじゃき、有り難いことよ。柱
も無いのに、よくまあ保っているものじゃ。

最初の石橋である眼鏡橋が架けられる以前は、中島川には木の橋が
いくつか架けられていた。しかし、盆地で雨が降ると洪水となりやすい長崎
市街の上流では、すぐに増水する中島川に住民が困っておって、文化を
求めて、江戸や京、大坂から文化を求めて旅して来る人々は、長崎を目
前にして川を渡るのに苦勞しておったんじゃ^[4]。

石橋は木橋と違い、腐ることもなく頑強で、この橋が架かったとき、当時
の人々はどんなに驚き、喜んだことか。。

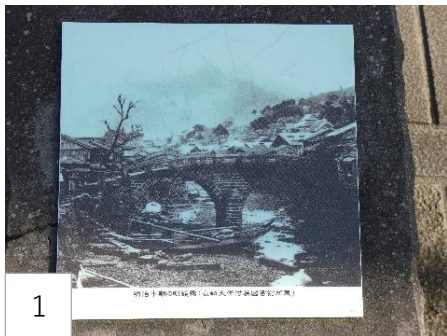
わが国ではここ長崎の眼鏡橋から石橋がはじまり、九州各地に伝わっ
た石橋はその後全国各地に架けられるようになったんじゃ。

眼鏡橋は平戸好夢が再架設してから現在までなんとか全流失を
免れた、まっこと丈夫な石橋じゃ^[5]。1982(昭和 57)年の長崎大水害では
甚大な被害が出て、中島川の石橋の多くが流されてしまったが、眼鏡橋
は一部の損壊にとどまっておる^[6]。

長崎市は、その後の増水時の氾濫対策として、眼鏡橋の辺りは川幅を
広げる必要があるとして橋の撤去も考えたが、このときに眼鏡橋を残したい
という市民の強い声もあり、橋を残したままで水害対策をすることに成功し
た^[7]！

なんと、川の両側にバイパス水路をつくったんじゃ。しかも、地下の水路だ
から、川幅と橋はそのままで流量を増やすことが可能になったんじゃ。石橋
群の景観を維持したまま、しっかりと治水できるとは、まっこと見事^[8]！

あの眼鏡橋が現在でも当時に近い姿で残っているとは、感動するぜ
よ！！



1 明治中期の眼鏡橋

写真（1,2,3）は眼鏡橋そばの石柱に貼れている写真を撮影したもの。

これ以前は、1721年の洪水では損壊がなく、1795年の洪水では石欄干のみ流失した^[9]。

2 昭和40年代の眼鏡橋

1953（昭和28）年以降、車両通行が禁止されている^[10]。

3 昭和57年（1982年）長崎大水害時の眼鏡橋

当時全体の15%の石材が流失しており、修復の際には、下流で発見された眼鏡橋の石材を用い、回収できなかった約30個の石についてはその他別途調達した。

残存する眼鏡橋の石材は^{かくせんせき}角閃石安山岩であったため、不足分は、この東方裏山にある風頭山の石材と諫早市の小長井石を用いて修復され、目地には樹脂系の目地材で積み上げたあと、漆喰（天川漆喰）を注入し、当時の美観を再現した^[11]。

4 中島川のバイパス水路

袋橋から魚市橋の間に作られた^{あんきよしき}暗渠式のバイパス水路（長さ約195m）が2006年に両側バイパスが完成^[12]。堰や壁を設け、一定以上の水量になるまでは川へそのまま水が流れるように設計されている^[13]。



5 袋橋からみた眼鏡橋

川辺に降りると、散歩道、川の両岸には幅の広い歩道があり、眼鏡橋を中心とした憩いの空間が整備されている。護岸には、自然の石が使われている^[14]。



6



7

6 ^{もくすによじょう} 7 黙子如定 禅師の像と

興福寺山門

黙子如定禅師<1596-1657>は江西省出身で1632(寛永9)年に来日。興福寺の2代目住職となり、眼鏡橋を架設した人物。彼

は、布教の傍ら浄財を集め、中国から石工を呼び寄せ、技術指導を行ったといわれる^[15]。(アーチの計算は、末次一族に依頼したとの説もある^[16]。



8

8 ランタンフェスティバルと眼鏡橋

写真提供：

石原一平氏

長崎市内で毎年1~2月頃に開催されるランタンフェスティバルは中国の旧正月を祝う行事「春節祭」を起源となっている^[17]。



9

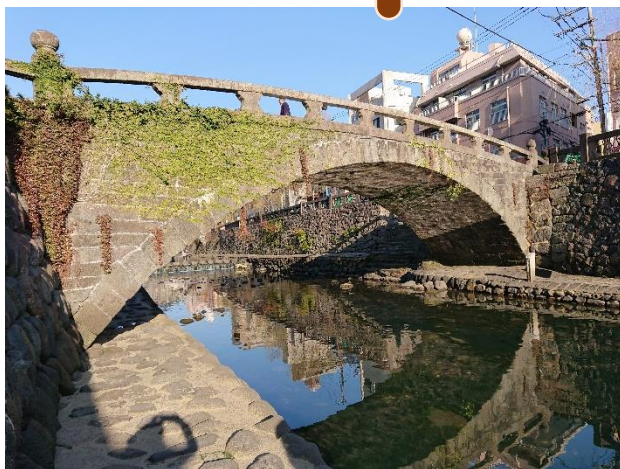
9 ハートストーン

眼鏡橋付近の護岸にはハート石があることから愛を願うパワースポットとして人気を集めている^[18]。この石は、長崎大水害後の河川改修工事において護岸工事の際に埋め込まれたようである^[19]。

袋橋

(ふくろばし)

これもまた頑丈な橋じゃ！！



袋橋

橋の（河口に向かって）右岸が江戸時代の町名の袋町で、西道仙により橋名がつけられている

[1]。長崎市指定有形文化財。

- 橋の長さ：9.4m
- 幅：4.4m^[2]
- 形式：石造り単アーチ式（歩道）

現存する石橋としては眼鏡橋に次ぐ古いもので慶安年間（1648～1652）に木橋を石橋に架け替えたと推定されている^[3]。

たびたびの洪水に破損はあったものの流失を免れ、長崎大水害では半壊するにとどまり、1985年に流された石材を用いて復元されている^[4]。こちらも壁石は平行布積、擬宝珠付きの高欄があり、長崎型石造アーチの形態が伺える。

袋橋は2015年まで車道として使われていたそうじゃ^[5]！頑丈じゃのう！



袋橋そばの「ぼんたくん」像

（清水崑の漫画をモデルとした像 平成4年建立）

中島川をのぼってきた迷子の子鯨と少年かっぱのぼんたくん。「昭和57年7月の大水害を忘れぬためにも、「ぼんたくん」をいつまでも可愛がって下さい。」と説明板にある。

アーチ式の石橋に憑かれた男の話

石橋に魅せられた男がいるぜよ

江戸時代中期、中島川に架けられた石橋の構造に興味を持った一人の男がいた。長崎奉行所に勤める下級武士、藤原林七(1765~1837年)がその人であり、林七は支柱を持たないアーチ式石橋の技術に強く憑かれる。

やがて彼は出島のオランダ人と密かに接触し、アーチ式石橋の技術の元となる円周率の計算を学ぶ。

しかし、異国人と接することが禁じられた鎖国の時代、国禁を破った林七は長崎を脱出する事になる。そして遠く、山深い肥後の種山村(現熊本県八代市)まで逃れた林七は百姓となり、そこで石工の宇七と出会い、石工の技術を学ぶ。

藤原姓を捨て種子山姓を名乗るようになった林七は、農作業の傍ら、アーチ式石橋技術を磨く(宮大工の「曲がり尺」をヒントに独自の技術を完成させたという)。林七は、実験をかねて文化元(1804)年現在の八代市東陽町に小さな石橋を3基建造する。そして、地域の石工をまとめ、林七の息子たちを含む「種山石工」^{たねやまいしく}を結成し、アーチ式石橋技術を伝授する。

アーチ式石橋の技術を発展させた「種山石工」は、江戸時代後期から明治・大正時代にかけて、肥後を中心に多数のアーチ式石橋を架けていく^{[1][2]}。

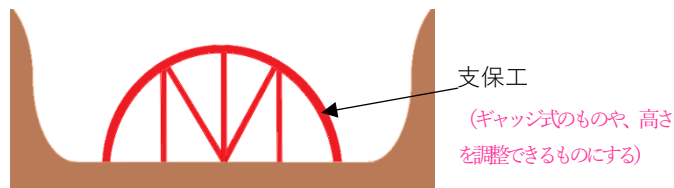
彼らが手がけた仕事は、東京の旧二重橋、日本橋をはじめ、鹿児島では甲突川五大石橋など30余り。膝元の熊本では霊台橋や通潤橋をはじめ、多くの石橋を完成させた^[3]。

★アーチ式石橋の造り方^[1]★

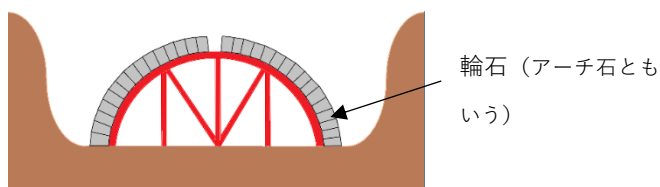
世界の石橋の歴史は古く、ローマ帝国の時代にはアーチ式石橋の技術は完成されておたらしい。その技術はヨーロッパ各地へ広まり^[2]、中国大陸へ、中国から長崎へと伝わったんじょう。

我が国の石橋は九州地方におおい。九州は台風が多い地方だが、架橋から長い年数を経てもなお、石橋の多くが崩壊することなく残っているのには、まさに石橋の頑丈さを感じられるのう。ここではそのアーチ式石橋の大まかな造り方を紹介するぜよ。

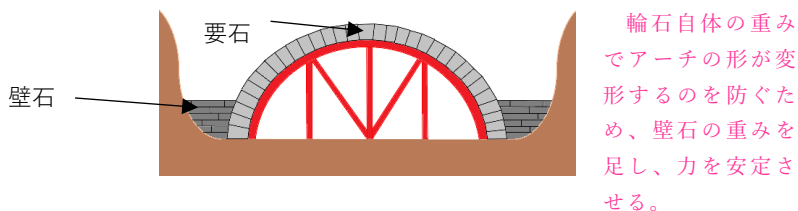
- ① 石橋を作る場所に^{しほこう}支保工という型枠を組み立てる。



- ② ^{わいし}輪石を兩岸側から順に組んでいき、^{かなめいし}頂上部の輪石（要石）の部分は開けておく。



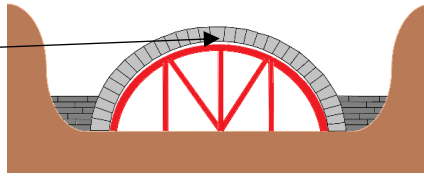
- ③ ^{かべいし}壁石と中詰め材（石や土砂、漆喰など）を入れ、ある程度壁石を積んだら、要石をはめ込む。



④要石をはめ込んだら、支保工の高さを下げる。

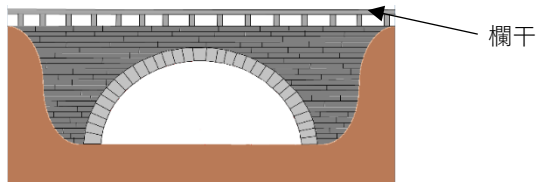
(輪石が固定されたのを確認し支保工を抜く。)

支保工の高さを下げる



この時、石が重みで沈み込んで全ての輪石の間がしまり、アーチ部分が固定される。

⑤壁石（中詰め材も入れる）を完成させ、欄干を作って完成となる。



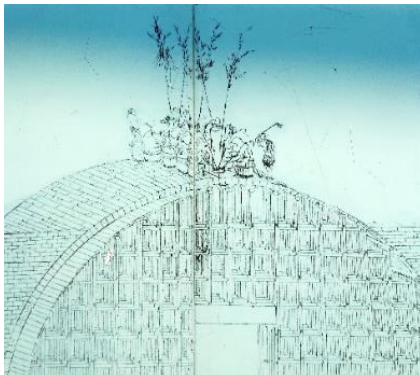
ポイント その1：兩岸の地盤が強固であること。

石は上方向からの力<圧縮力>に強く、その力を石の接触面に伝え、水平方向に広がろうとする力を相互の力<摩擦力>によって抑え、橋の安定を保っている。このため兩岸には大きな力<水平力>がかかるため、地盤が弱いとアーチは崩壊してしまう。

ポイント その2：輪石は円周率に基づいて一つずつ石の大きさ、形を決め、石を精密に削る必要がある。

輪石と輪石の接着面を広く取る事で摩擦力が増し、橋がしっかり固定される。

※造り方は、熊本国府高校パソコン同窓会WEBサイト（成田先生作成）と、石匠館の上塚館長のお話を参考に作成。なお、上記の石橋の造り方は橋により異なることがあるため、必ずしも全ての石橋で共通するものではない。



眼鏡橋そばの石柱の説明板

「長崎古今集覧名勝図絵

（長崎歴史文化博物館所蔵）

輪石を並べ終わり、最後の要石を打ち込んでいるところ。」

と図絵の下に記されている。

常盤橋・賑橋

次の常磐橋・賑橋・万橋は、いずれも最初は江戸時代前期に架けられた石橋じゃった。今はそれぞれ RC の車道橋となっており、全く別の姿に生まれ変わっておるが、どれも個性があるのう。万橋と中央橋の間の、初代鎌橋はわが国で最初に架けられた鉄の橋じゃ！

常盤橋



- ・初代石橋が、1679（延宝7）年に唐商人魏之琰^{ぎしえん}により架設（当時は「古川町橋」と呼ばれていた）^[1]。
- ・現在まで3回（1803年石橋、1912年RC橋、2001年に現在の姿に）架け替えられている^{[2][3]}。

賑橋



- ・初代石橋が、1666（寛文6）年に崇福寺の檀家であった唐商人の何高材^{がこうざい}の寄進によって架設（当時は榎津町橋と呼ばれ、何高材の自宅の近くであった）^[4]。
- ・現在まで4回架け替えられており、1799年が一度目、1901（明治34）年に鉄橋、1928（昭和3）年にRC橋となり、現在の橋は1990（平成2）年に再架設されたものである^[5]。

Yorozubashi

万橋

(よろずばし)

アクセス：
路面電車
『西浜町』から
徒歩 10 分



モダンなデザインぜよ！！

万橋は 1678(延宝 6)年京都の商人・金屋喜右衛門によって架設された石橋で、当時、よろずやまち萬屋町に架かっていたので「萬屋町橋」とも呼ばれていた。1796(寛政 8)年大水害で流失し、1801 年(享和元)階段付き石橋が再建され、1882 年(明治 15)に西道仙により「万橋・萬橋」と命名された [6]。

1915 (大正 4)年鉄筋コンクリート橋になり、^[7]2002(平成 14)年に再架されている。石板を金属支柱に対して 30 度傾けて取り付けることによって、ルーバー状の現代的なデザインとなっており、長崎の「石」の文化も体現されている [8]。 (2003 年グッドデザイン賞受賞。)



鯨彫りの銘板(橋の両側 4 ヲ所にある)

左岸側の万屋町では、長崎のお祭り「おくんち」における山車が「クジラ」であり、鯨が地域のシンボルとなっている [9]。

鍍橋

(くろがねばし)

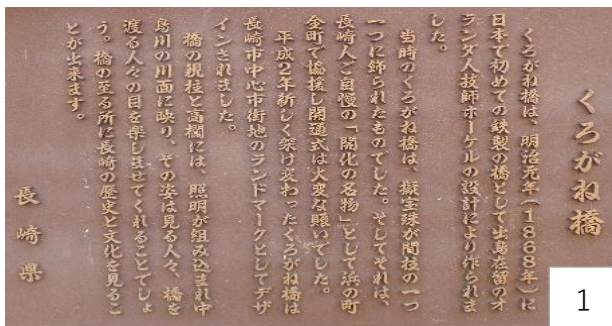
明治維新・文明開化の音がするぜよ！！

鍍橋

初代は1868（明治元）年にかけられた日本最初の鉄の橋である。

現在の橋は、1990年に架設された3代目の橋である。繁華街が近く人通りが多い。各種団体の街頭活動や路上アーティストらの表現の場にもなっている。

- 橋の長さ：22.1m
- 幅：18.2m^[1]
- 形式：RC（車道）



1 鍍橋近くの説明板

2 オランダ船のレリーフ（欄干部分）

くろがねばし

鍍橋は、長崎市民には「てつばし」の愛称で親しまれておる^[2]。

今は鉄筋コンクリート橋じゃが、初代の橋はなんと我が国初の鉄橋ぜよ！

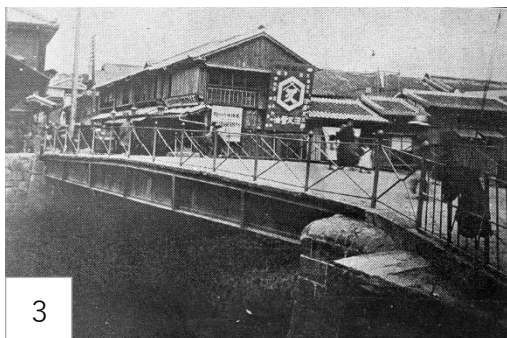
1632年に木の橋が架けられたが、水害により幾度となく大破・流失しており、町民の有志が協議し、長崎製鉄所(のちの三菱重工業長崎造船所)に鉄製の橋を依頼、1868年に日本最初の鉄橋が完成^[3]。

この長崎製鉄所は、日本初の近代的機械工場であり、これによって、長崎の町も近代的なものが増えたんじゃ。船のドックや鍍橋がその代表じゃ。^[4]

当時の初代鍍橋の開通式は、大変な賑わいじゃっらしい。橋面は板張りとされ、通行人の下駄の音がよく響いたそうじゃ^[5]。

完成はちょうどわしが暗殺された翌年の明治維新の1868年でのう。まっこと惜しかった！！橋の完成を見たかったのう！

ちなみに、その後2回架け直されており、現代の橋は3代目ぜよ。



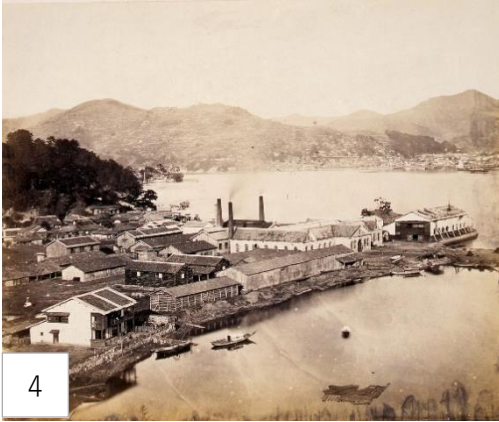
3 初代の鍍橋

写真提供：長崎造船所史料館

設計はオランダ人技師ホーケル、工事は長崎製鉄所頭取の本木昌造が指揮を採り^[6]、総工費 1万6千両をかけて建設された^[7]。

●橋の長さ：21.8m ●幅：6.4m^[8]

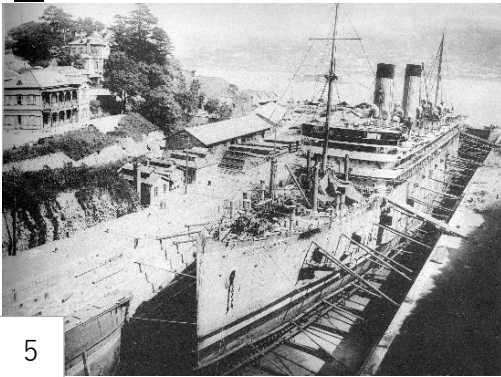
4 幕末の長崎製鉄所 写真提供：長崎大学付属図書館



1857年幕府により、海軍伝習所においてオランダ人H・ハルデスらの指導のもと、長崎鑛鉄所の建設が着手され、1861年に竣工（1860年「長崎製鉄所」と改称）^[9]。明治維新後、官営となり、長崎造船所と改称され1887（明治20）三菱社に払い下げられて、三菱重工業長崎造船所へと発展した。

対岸に長崎市街地を望む浦上村、飽の浦の沼地を埋め立て建設された日本初の洋式工場である長崎製鉄所は、オランダから取り寄せた工作機械と西洋科学に基づく技術により、船舶の建造や修理、炭鋸機械、橋、印刷機、農機具など、諸機械の製作を重ね、わが国における近代工業化を牽引した^[10]。

5 三菱造船第3ドック 写真提供：長崎造船所史料館



長崎製鉄所（当時は「長崎造船局」と改称されている）において1879（明治12）年、当時東洋一といわれた立神第一ドックが完成^[11]。

1893年三菱造船所と改称され、1896年には第二ドック、1905年第3ドック完成。第3ドックは今も現役で使われており、**世界遺産**となっている

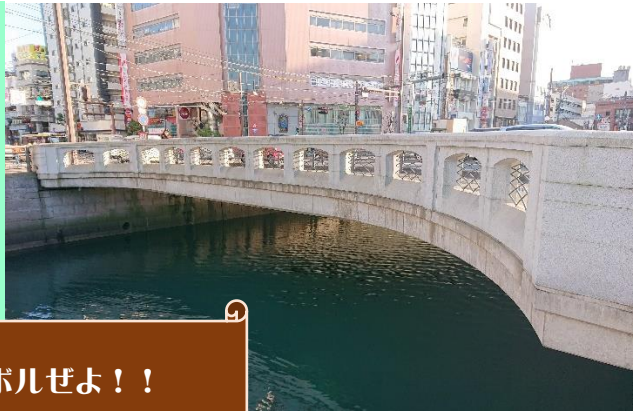
^[12]。

Chuoubashi

中央橋

(ちゅうおうばし)

アクセス：
路面電車『西浜町』から
徒歩9分



新たな街のシンボルぜよ！！

中央橋は上流の石橋群とは異なり、「戦災復興のシンボル」としての橋であり、1952（昭和 27）年、戦災復興事業の一環として県庁と繁華街とをつなぐために架けられて以降、長崎市の交通の要衝となっている。

洪水防止を目的とした中島川の拡張工事にともない、2007（平成 19）年架け替え工事が開始、2009 年工事完了^[1]。この橋は^{かさいし}笠石と親柱に御影石を用いたシンプルかつ柔らかいデザインのコンクリート橋で、既存の笠石が再利用されている。（2010 年グッドデザイン賞受賞^[2]）



長崎大水害時の氾濫最高水位（ガラスの部分）を示すモニュメントの塔

1982 年 7 月 23 日、中央橋の辺りの被害水位は 1.55m であった^[3]。

被災後、全国ロータリークラブからの義援金が寄せられ、時計台が記念碑として設置されていたが、2009 年の中央橋架設工事の際、撤去され、この記念碑が設置された。

Dejimabashi

アクセス：路面電車『新地中華街』から徒歩2分

出嶋橋

(でじまばし)

日本最古の現役の鉄製道路橋ぜよ！！



出嶋橋 ●橋の長さ 36.7m ●幅 5.5m ●形式：鉄製トラス橋^[1]

次は、出嶋橋じゃ。この橋は、現役で使われている鉄製道路橋の中では最も古い橋ぜよ！

この出嶋橋、近寄ってみると様々な技巧をこらしておる！

橋の出入口の上の方(橋門構)に、変わった形の黒色の銘板がある。これはコウモリがモチーフになったものじゃ。

コウモリは中国では縁起物で、長崎市内の崇福寺にもコウモリの絵柄あつたりするぜよ^[2]。

銘板の近くにある唐草模様の装飾もなかなか洒落ておる！

端柱が細い部材で編み上げられて透けて見えたり、大きなボルトで接合されておって、独特なデザインじゃ。橋の色は薄い水色で、出島にある旧出島神学校の色と近い色で、同じ明治期のものじゃ。

出嶋橋はもともと中島川の河口側にあったんじゃ。その橋は、新川口橋と呼ばれておって、わが国で早期(1890年)に作られた鉄橋じゃった。アメリカから輸入した鋼材でつくられたトラス橋で、架設工事は日本人監督の元に行われておる。

そしてその20年後、すぐ下流に玉江橋が架設されると、交通の要が移り、新川口橋は不要となったため、解体され部材は保存された。

この頃出島の東側にあった旧出嶋橋が老朽化してきたため、新川口橋の部材を再構成し、新しい出嶋橋として、現在の場所に移設されたんじゃ^[3]。

かなり細身の橋ではあるが、原爆にも耐え、130年近くも現役の橋として使われ、長崎市街の風景の一部となっておるのう。

1 出嶋橋の説明版

出嶋橋

Deshima Bridge

出嶋橋 데지마(出嶋)다리

中島川変流工事に伴い、1890年(明治23年)に中島川河口に新川口橋として架けられました。現在の出嶋橋は、1910年(明治43年)に現在の位置に移設・改称されたものです。施工は日本土木会社、技師岡実康の監督によるもので、長崎市の発注により架橋されました。米国から輸入した錬鉄を用いたピン接合のプラットトラス橋で、我が国における鉄製トラスの初期の橋です。供用中の道路橋では最古の橋で、日本の近代土木技術史の観点からも重要な構造物であり、長崎が誇る近代化遺産の1つです。

1

初代は、中島川変流工事に伴い、1890(明治23)年中島川の河口に新川口橋として架けられた。

現在の出嶋橋は、1910(明治43)年に現在の位置に移設、改称されたもの。2003(平成15)

年、土木学会の選奨土木遺産に指定^[4]。



2 出島側入口から見た出嶋橋 **3** 両側の橋門構にあるコウモリの銘板

4 黄檗宗の寺院として日本最古である崇福寺第一峰門にあるコウモリの絵柄

「コウモリは中国で「蝙蝠（びえんふー）」と発音し、「蝠」が「福」と同じ音であることから中国人の最も好むものの一つとされている^[5]。

5 四ヵ所にある唐草文様の装飾 **6** シンプルだがデザイン性のある端柱



ライトアップされた出嶋橋
後ろの建物（十八銀行本店）とともに水面に映っていて、外国のような景観である。

ゴール★

いよいよ、最終地点じゃ！！

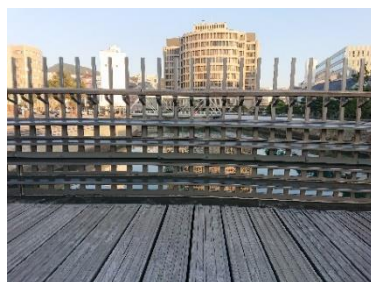
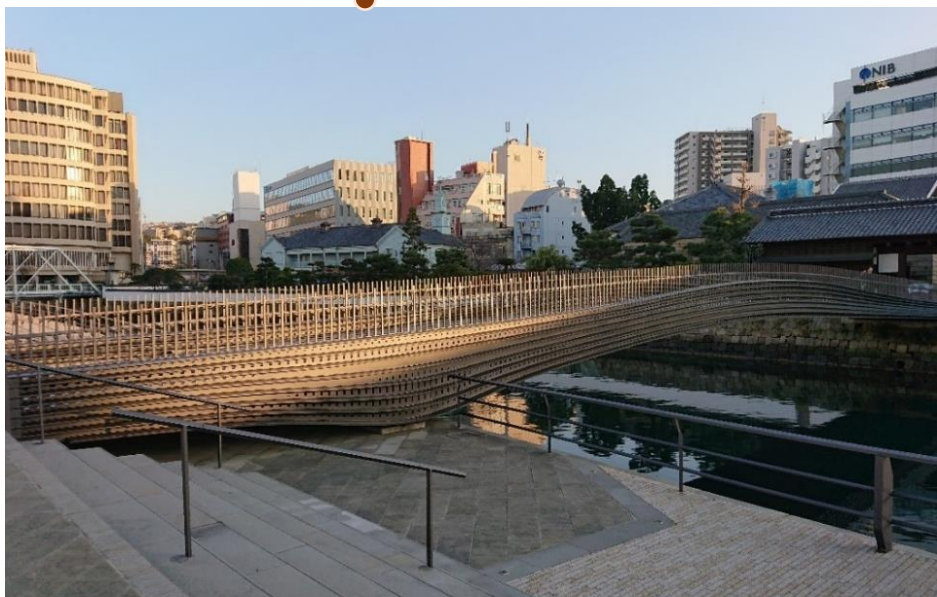
Dejimaomotemonbashi

アクセス：路面電車『大波止』行から徒歩4分

出島表門橋

(でじまおもてもんばし)

130年ぶりに出島に橋がかかったぜよ！！



出島表門橋

2017（平成29）年11月24日完成開通式が執り行われ、秋篠宮皇嗣同妃両殿下、オランダ王室のローレンティン妃らが出席された^[1]。2018年グッドデザイン賞受賞^[2]。●橋の長さ：38.5m●幅：4.5m●重さ：50t^[3]●橋梁設計：ネイ&パートナーズジャパン

左手の川を挟んで出島の建物が見えてきたのう。ほら、あの格好のええ橋が見えるかのう？あれは出島表門橋じゃ！ついに、ツアーのゴールまでたどり着いたのう！

2017年11月に、出島に新しい橋、出島表門橋が架かったんじゃ！架設位置も江戸時代石橋が架けられていた場所と同じで、出島と江戸町の間じゃ^[4]。1864年初めて長崎を訪れたとき、出島商館はすでに閉館しておったんじゃが^{[5][6]}、なんと平成・令和の世の中では出島が復元されていっており、和蘭商館も綺麗に再現されておる！

かつて出島は人工島で見事な扇形をしておったが、1859年に長崎、神奈川、函館港が開港するとその役割を終え、1866年以降から次第に周囲が埋め立てられ、1904年の湾岸改良工事で完全に姿を消してしまった^[7]。

1951(昭和26)年より、出島が果たした歴史的価値を未来に伝えるため、長崎市は出島の復元整備事業を進めており、2050年を目標に、出島の四方を掘って運河で囲み、扇形の島の姿を再現する、完全復元を目指しているとのこと。出島表門橋の架設もその一環ぜよ^[8]。



復元された出島の建物

写真提供：出島復元整備室 ※見学には入場料が必要です。



現在そのうちの25棟を復元させるための事業が進んでおり、2016年から一般公開が開始^[9]。龍馬がオランダ商人から購入したライフル銃を保管していたとみられる石造り倉庫も復元されており、東側には、実際のサイズの15分の1の模型「ミニ出島」もある^[10]。

出島の果たした役割

日本の近代化はここ長崎から始まったぜよ！

鎖国時代の約 200 年間、日本で唯一ヨーロッパに開かれていた貿易の窓口となった出島は、長崎を代表する豪商 25 人が出資して 1636 (寛永 13) 年に海中を埋築し、完成した^[11]。出島造設の目的は、キリスト教の布教を禁止し、貿易を監視するためであり、来船ポルトガル人を居住させていたが、1637 年島原の乱が起これ、1639 年幕府はポルトガル人を渡航禁止に。出島は空家となり、1641 (寛永 18) 年に、平戸のオランダ商館をここに移動して以降、出島のオランダ商館は 1859 年まで機能していた。出島に住むオランダ人は、厳しく規制された生活を送っており、彼らは年に一度、将軍に謁見するために江戸 (現在の東京) に上るといった非常に限られた時にしか、その島から出ることを許されなかった^[12]。

一方で、出島の正面に位置する江戸町の護岸沿いには町屋が建ち並び、活気にあふれ、その背後の丘の上には、出島の監視の役割を担った長崎奉行所が置かれた。幕末には長崎海軍伝習所も設置され、オランダ軍人を教師として、幕臣や雄藩藩士たちは、蘭学(蘭方医学)や航海術などの諸科学を学んだ (龍馬の師匠・勝海舟は修業生代表であった^[13])。

このように日本人は、出島のオランダ人と接触することを通して、西洋の技術や医学的処置の最新動向を追うことができた。そしてこの接触こそが 19 世紀後半に始まったばかりの、つまり、大政奉還を経て日本が数世紀にわたる鎖国を廃止し、世界に国を開いた時に始まった、日本の近代化の基礎となったのである。



「出島図」 資料提供：長崎歴史文化博物館

江戸時代後期の出島にはカピタン (オランダ商館長) 部屋や料理部屋、番所など 49 棟もの建物があった^[14]。

出島表門橋の完成はその構想から3年がかりであったが、架橋にあたって越えねばならぬ壁があったんじゃ。

土台となる橋台を兩岸に設置する必要があるが、出島側は国指定史跡となっており、地面を掘れば遺構が出るかもしれないということで、橋台を置くことができません。

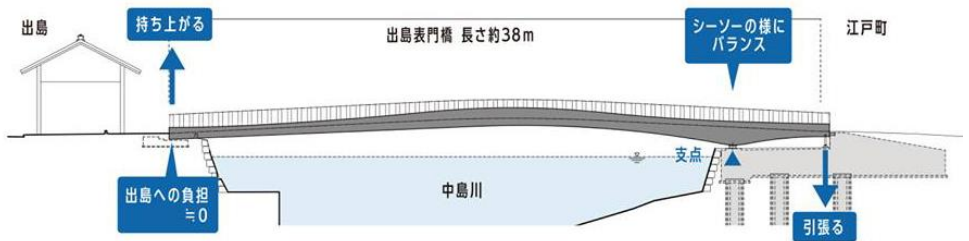
通常この状況では吊り橋が妥当ということであるが、これも景観を損ねてしまう…。

さて、どうしたものか。

この解決策として、導き出した答えは従来の常識を打ち破るまっこと斬新なものじゃった。

江戸川町側に重しをかけて出島側に橋が落ちないようにバランスをとったとのことじゃ。テコのような原理で片側だけに重しをのせるというのは、世界的にみてもほとんど例がないぜよ！

この特殊な構造のため、橋全体も独特なカーブを描いておって美しいのう。デザインも出島の風景を邪魔しない、シンプルなものとなっている一方で、橋桁に無数の開口を設け、手すりまで一体化した構造という非常に個性的で珍しい橋になっておるとのことじゃ^[15]。



出島表門橋側面図

資料提供：出島復元整備室

出島表門橋プロジェクト

プロジェクトチームの熱き挑戦ぜよ

出島表門橋の架設は、長崎市（出島復元整備室）の「出島表門橋プロジェクト」の下に行われ、様々な取り組みが行われた。

設計開始時、石橋の復元を望む市民の声も根強くあった。しかしながら、明治期からの変流工事で、出島の扇形の部分が削り取られ、川幅が約6倍に広がっており、江戸時代に架けられていた橋長4.5mの石橋の石材で川幅30mの橋を復元することは困難であった。当初30mのアーチ型石橋の架橋が考えられたが、国指定の史跡を復元する場合、当時と同じ物を忠実に復元しなければならないというルールがあり、「市民に復元だと誤解されないような現代の橋を架けるべし」という文化庁の指導があり、石橋の架橋は断念された。

さらに出島側に橋台を設置できないという問題もクリアせねばならず、高度な知識と豊富な実績をもつ設計者をプロポーザル（コンペ）方式で選定することとした。選ばれたのは、ネイ&パートナーズジャパンというベルギーの設計会社。彼らは、橋台を一つも設置しない工法で、橋全体に圧迫感のなく出島の景観に溶け込むような斬新で大胆なデザインを提案し、造船の街・長崎の溶接技術や施工技術を駆使し架橋。

石橋でない橋の架設を反対する声もある中、設計者の渡邊氏らは、出島表門橋のコンセプトを市民に知ってもらい、協力を得るため、「出島ベース」という団体を結成。出島のロゴをデザインしたり、「出島ポーズ」を考案して市民に広めたり、活動資金を得るための祭りやイベントを開くなど様々な活動を展開。これら出島ベースの地道な活動を通して、市民の意識にも徐々に変化がみられるようになったとのことである^[16]。

出島表門橋は、2018年に土木学会広報大賞、ベルギースチールアワード国際部門大賞、グッドデザイン、建築美術工芸協会 AACA 賞および JIA 建築優秀選を受賞している^[17]。

出島表門橋を渡ると侍の格好をした係の人が迎えてくれるぜよ！

この橋を渡ると出島にゆける。江戸時代にタイムスリップした様な気分になって、わしも胸が熱くなるぜよ。

昔見られなかった出島の建物の中も、この橋を渡ったら見学できるぜよ。今現在 16 棟ほど復元されておるようじゃ^[18]。

わしも後でゆっくり見るとするぜよ。楽しみじゃのう！！



出島表門橋のライトアップ

出島表門橋架設と同時に、出島対岸の江戸町川の公園整備も行われているため、橋のライトアップの様子もゆっくりと眺めることができる。

さて、これでこのツアーは終了じゃ！
楽しんでもらえたかのう？！

今回は、中島川をめぐるみたが、
中島川の橋やダムにも深い歴史と文化があることが分かったのう。

今日はおまさんと一緒に歩いて、わしも楽しかったぜよ！

それではまた、おまさんとどこかで会えるのを楽しみにしておるぜよ！



ツアー、お疲れ様じゃったのう！！

おまけ↓

コースは終了となるが、中島川のもう一つのダムと、その他の橋、そして、わしのゆかりの地も紹介しておくぜよ。

西山ダム

中島川のもう一つの上流（西山川）の方に、西山ダムがある。

旧西山ダムは本河内低部ダムと共に建設され、国内で二番目に古い重力式コンクリートダム（1904（明治37）年竣工）であり、歴史的な価値が高いため土木遺産となっている。

1982（昭和57）年の長崎大水害後、旧ダムの下流側に新たに治水機能をもたせたダムが建設されており、旧ダムは新ダムの貯水池内に保存された^[1]。



1 上流の西山ダム
（旧）

2 下流の西山ダム
（新）

3 西山ダム（新）の天端の歩道橋

グラバー邸に用いられている格子模様の洋風ガス灯風の照明がおしゃれ。竜のモチーフもあり、長崎らしいデザインになっている。

4 西山ダム（新）の堤体（高麗橋（旧）から撮影）

5 西山ダムの管理事務所

レンガ造りの洋館であり、ダム天端のデザインと調和した外観となっている。

高麗橋

高麗橋（旧）（石橋・歩道）



高麗橋（新）（RC橋・車道）



- ・1652（承応元）年、中国（明国）人によって架設（蘇州出身の興福寺の檀家たちによる寄付）。
- ・1866（慶応2）年に豪商であった池島正助により私財を投じて架け替えられ、その後も崩落した記録はない^[2]。
- ・1915年（大正4）年に橋面をコンクリートで増設し^[3]、長崎大水害による被害は免れたものの、河川改修のため解体し、1987（昭和62）年に鉄筋コンクリート橋として再架設されている^[4]。
- ・1993（平成5）年に当時の石材を使って、西山ダム河川公園に石橋が復元されている^[5]。
- ・高麗橋（旧）は長崎市指定有形文化財である。

こまねき

拱橋



- ・長崎大学経済学部の前身の一つである旧長崎高等商業学校の校地造成に合わせ、1903（明治36）年に架橋された、端正な近代的設計がなされた石橋である^[6]。
- ・橋名は、中国語でアーチのことを「拱」ということや、学校の守衛が遅刻しそうな学生に手招きしていたことなどに由来するといわれる^[8]。

・国登録有形文化財に指定。

・長さ：17m 幅：9.1m^[7]

阿弥陀橋



- ・初代石橋は1690（元禄3）年日本人町人園山善爾が寄進し、架設した^[9]。
- ・長崎大水害後、1987（昭和62）年に鉄筋コンクリート橋（車道）として再架設されている。
- ・崩落の記録はない。

- ・橋の名は、橋のもとに阿弥陀堂が建てられたことに由来するといわれる^[10]。
- ・現在移築復元場所を検討中であり、石材は保管されている。（旧橋は1971年に長崎市有形文化財に指定された。^[11]）

龍馬ゆかりの地①亀山社中 アクセス：路面電車『新大工町』から徒歩11分

わしが同志と結成した亀山社中はほら、左手の山（風頭山）の中腹にある。石段を登ってゆくと、亀山社中の跡の石碑が立ち、10畳の間には、わしがもたれかかった柱が残っておる。

最近ではたくさんの見学者が訪れてくれるそうじゃ！

長崎市亀山社中記念館



坂本龍馬が同志と組織した日本初の商社「亀山社中」跡に建つ記念館。龍馬がもたれかかって座ったと伝えられる10畳座敷の柱など黒褐色の建具は幕末の家屋の雰囲気をも忠実に再現されている^[12]。

亀山中そばの「龍馬のぶ一つ像」



亀山中創立 130 周年記念のモニュメント。日本で最初にブーツを履いたといわれる坂本龍馬は、自由と希望の地・長崎で「ぶ一つ」を履いて新しい時代へと掛け抜けた・・・

この場所は、実際にぶ一つの中に足を入れ、舵を握ることができる観光スポットである。

龍馬ゆかりの地②上野撮影局跡

中ノ橋から、川沿いに下っていくと、上野撮影局跡がある。わしは昔、この地にあった写真屋で当時は珍しいガラス貼りの部屋の中で写真を撮ってもらったんじゃ。

演台のそばに立って撮影してもらったんじゃが、その写真が現代の世でも、よく知られておるらしい。すこし照れるのう。

上野撮影局跡のモニュメント



1862 年開業の（横浜の下岡蓮杖と並ぶ）日本最初の営業写真館があった場所である。坂本龍馬、高杉晋作、グラバーなどがこの地で写真を撮っている。ここで撮影された龍馬の写真と同じ構図のモニュメントが設置されている^[13]。

用語解説 & 参考資料

日見峠

●**長崎街道**：江戸時代、九州の街道整備においては、南蛮貿易の窓口であった平戸に通じる唐津街道に代わる道として、長崎街道が最重要視された。徳川家康は、長崎を天領（直轄領）と定め海外貿易の拠点とし、長崎奉行を重要ポストとしておいたため、参勤交代の際には長崎奉行の役人が、絶えず長崎街道を利用して江戸まで往復した。

当時、長崎のカピタン（オランダ商館長）たちも、將軍拝謁のため 150～200 人ほどの大人数でこの長崎街道を歩いたといわれている。

現在の長崎街道は現在 R200 号、R34 号に継承され、JR では筑豊・長崎・佐世保・大村線に相当する。小倉常盤橋（北九州市小倉北区京町）から長崎街道石碑（長崎市桜馬場）までの、約 223km の街道である。（長崎市の起点には、石碑以外に西役所や出島などの説もある。）

長崎街道 WEB サイト「街道歩きの旅」－「長崎街道の地図やルート」より

●**シーボルト（フィリップ・フランツ・バルタザール・フォン・シーボルト [1796-1866 年]**）：1823 年に長崎出島のオランダ商館に医師として来日。長崎郊外に私塾を開設し、高野長英（江戸時代後期の医者・蘭学者）ら 50 人に西洋医学を伝え、診療所での診察も行ってた。1826 年にはカピタンの江戸参府に随行、動植物や鉱物、民族資料を集めた。1828 年に帰国する際、積み荷に幕府禁制の地図が含まれていることが発見され、国外追放処分となった（シーボルト事件）。1858 年に日蘭修好通商条約が結ばれ、シーボルトに対する追放令が解除され、1859 年にオランダ貿易会社顧問として再来日。外交顧問などを務め 3 年滞在、再び資料収集をして帰国した。

フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトより

○資料

- [1][6] 国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所 WEB サイト
「道路情報」－「長崎ドライブ情報」－「長崎街道・日見峠浪漫」
- [2] ながさき旅ネット WEB サイト
「ながさき旅ネット新聞特別号龍馬塾 vol.2 龍馬、長崎にくる！」
- [3] 長崎市公式観光サイト あっ！とながさき WEB サイト「特集」－
「龍馬とグラバー交遊録」
- [4] 日見新道（明治新道）の説明板（長崎市芒塚）
- [5] ナガジン！WEB サイト 「今も昔も長崎の重要な交通路、日見の地」

[7][8] 長崎県『DOVOC 通信ながさき No.21 (H25 年 10 月)』

「長崎県の土木遺産第 2 回 県内道路トンネルの土木遺産
長崎大学名誉教授 岡林隆敏」

本河内ダム（低部放水路橋、低部・高部ダム）

●**径間**：アーチの両端における支点柱間の距離。電柱など隣り合う二つの支持物間の距離。スパン。三省堂大辞林第三版より

●**充腹アーチ**：アーチと路面の間に材料が隙間なく敷き詰められているアーチ橋の種類。（その逆は開腹アーチで、アーチと路面の間に空間があるもの[オープンスパンドレルともいう]）フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』アーチ橋 より

●**メラン式**：コンクリートアーチ橋の施工に用いられる工法で、メラン材と呼ばれる鋼製アーチをあらかじめ架設しておき、これをコンクリートで巻き立てていく架設工法。(株) 銭高組 WEB サイト「ZENITAKA Topics」- 「アーチ橋 メラン工法」より

●**吉村長策[1860-1928 年]**：明治から大正時代の大日本帝国海軍技師、土木技術者。日本各地の水道敷設の功労者で、長崎では長崎市水道工師長として日本初の上水道専用ダムである本河内高部貯水池の建設を率いた。フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』吉村長策 より

●**第一次長崎水道拡張事業**：1898（明治 31）年の市域の合併、1904（明治 37）年の湾岸埋めたて後の宅地造成による長崎市の人口増に伴って行われた西山ダムと本河内低部ダムを建設する事業。本河内低部ダム 県の説明板 より

●**アースダム**：主に土を用い、台形状に形成して建設するダム。アースフィルダムや土堰堤とも呼ばれる。最も古典的な型式で、全国各地に散らばる「ため池」はこの形式で建設されている。旧本河内高部ダムは、透水性の異なる、普通土、精選土、粘土に区分された構造をなし、表面には自然石張り、取水塔はレンガを積み上げ、漏水対策にモルタルを塗るなど全て人力作業で行われ、当時の高度な技術と職人技が伺える。長崎県 WEB サイト「文化財の広場」- 「長崎の文化財」- 「本河内水源地下水施設」、
フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』アースダム より

●**長崎大水害**：昭和 57 年 7 月 23 日、長崎県中部から南部に停滞した梅雨前線は、降り始めから翌 24 日までの総雨量 572mm の降雨を記録した。特に長与町役場では、我が国観測史上最大の 1 時間で 187mm を記録しており、土石流や山崩れなどが各地で多発し、国道 34 号の寸断等長崎県では多くの犠牲者と被害をもたらす未曾有の大災害となった。被害状況としては、死者、行方不明 299 名、住家被害 39,755 戸、崖

崩れ 4,306 箇所となっている。国土交通省 九州地方整備局 WEB サイト「防災の取り組みと過去の災害」より

○資料

[1] 九州地域づくり協会 WEB サイト

「土木遺産 in 九州 本河内低部（水道）堰堤放水路橋」

[2] 九州地域づくり協会 WEB サイト「土木遺産 in 九州 本河内低部（水道）堰堤」

[3] 日本ダム協会 WEB サイト「ダム便覧 2019」－「布引五本松ダム（元）」

[4] 長崎県 WEB サイト「文化財の広場」－「長崎県の文化財」－
「本河内水源地水道施設」

[5] 奥村組 WEB サイト「実績集」－「本河内高部ダム建設工事」

[6] 文化庁 WEB サイト「国指定文化財等」－「本河内水源地水道施設」

[7] 九州地域づくり協会 WEB サイト「土木遺産 in 九州 本河内高部（水道）堰堤」

[8] 日本ダム協会 WEB サイト「ダム便覧 2019」－「本河内高部ダム（再）」

一ノ瀬橋

とうおつうじ

●**唐大通事**：江戸時代、長崎奉行の配下に置かれ、唐人屋敷・出島に役所を中国人との貿易交渉に通訳兼商務官として携わった者。長崎奉行所の顧問のような仕事もあり、中国からの渡来人の子孫が家業として世襲した。大通事と小通事があり、大通事は「長」的な役割を、小通事は、大通事を補佐する役割を務めた。

小学館デジタル大辞泉、大辞林 第三版、日本大百科、

宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』より

ちんどうりゅう

●**陳道隆** [1617-1676年]：福建省出身で鹿児島に渡り、島津候に医業者と仕えた父・陳沖一と日本人の母を持ち、長崎に渡って、唐姓の陳を日本姓に変え、えがわ 頼川家を創設して藤左衛門と称した。35年間にわたって唐通事を勤め、福濟寺の第一檀家であったといわれる。妻を亡くした翌年の1653年に一ノ瀬橋を架設。1654（承応3）年おんげくしゅう 隠元禪師、1655年（明暦元）年、木庵禪師を日本に招き、わが国の黄檗宗の普及に尽力した。眼鏡橋を設計した黙子如定が亡き後も、禪師たちが連れてきた弟子たちの中に建築技術者を兼ねたものもあり、中国系の技術はますます充実していたといわれる。

長崎市 WEB サイト「文化財郷土芸能」－「唐通事頼川家初代墓地」、

宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』より

○資料

[1][4] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年8月

[2] 長崎新聞社『長崎県大百科事典』「一ノ瀬口」

- [3] 山口祐造『石橋物語<上巻>』土木施工管理技術研究会 1978 年
- [5] 日本の石橋を守る会 WEB サイト「日本のめがね橋一覧表 長崎県」
- [6] 長崎しにせ会 WEB サイト「長崎街道 その一 新大工～蛍茶屋」
- [7] 長崎 WEB マガジン ナガジン WEB サイト「長崎の歌 (3) 春雨、浜節、長崎甚句」

古橋

●**高欄**：こうらん縁、基壇、階段などの端に設ける装飾と安全を兼ねた手すりで、〈勾欄〉とも書かれる。横材（下からじふく地覆、ひらげた平桁、ほこぎ架木から成る）を柱の斗束とますづか榑束が支えている。隅や端の納まりによって、親柱をたて上に擬宝珠をおく〈擬宝珠高欄〉、親柱を使わずほこぎ架木先端を長く、平桁と地覆先端をわずかに出す〈組高欄〉、架木先端をそらせる〈はね刃高欄〉などがある。

世界大百科事典 第2版より

●**親柱**：高欄や階段の手摺りなどの端または曲がり角にある太い柱。

三省堂大辞林第三版より

○資料

- [1][4] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年8月
- [2] 長崎市公式観光サイト あっ!とながさき WEB サイト
「スポット」－「トロトロ坂」
- [3][5] 長崎市 WEB サイト「市民生活」－「文化・スポーツ・おでかけ」－
「文化財・郷土芸能」－「古橋」
- [6] 五十畑 弘著『図説日本と世界の土木遺産 ものづくり技術遺産(土木の博物館)』
秀和システム 「第6章 石橋」

中川橋

●**花崗岩**：かこうがん深成岩（火成岩のうち、マグマが地下深くでゆっくり冷えて固まったもの）の一種。完晶質（全て結晶から成りガラスを含まないもの）・等粒状で、色は白っぽい。磨くと光沢がでる。石碑、建築・土木用材など広い用途で用いられている。神戸の御影市が産地である御影石が代表的。御影石は、堅硬で圧縮強さや耐久性が大きく、美しい外観に特徴があり、建築物の構造・装飾に使用されることが多い。

三省堂大辞林第三版、フリー百科事典 より

●**安山岩**：火山岩（マグマが地表または地表に近い所に噴出してきて冷え、固まってきた岩石で、一般に細粒やガラス質を含む）の一種。色は暗灰色（黒色に近いものもある）で板状・柱状の割れ目があり、硬く、耐火力が強い。土木・建築石材や墓

石に用いる。

世界大百科事典第2版、デジタル大辞泉、ブリタニカ国際大百科事典、

三省堂大辞林第三版、精選版 日本国語大辞典 より

○資料

- [1][4] 長崎県 WEB サイト「文化財の広場」－「長崎県の文化財」－「中川橋」
- [2][3] 文化庁 WEB サイト「国指定文化財等」－「中川橋」

一之橋・中之橋・鎮西橋

●**長崎国際産業観光博覧会**：1934（昭和9）年に、長崎市中之島埋め立て地と雲仙で開かれた長崎市主催の博覧会。昭和9年3月25日から5月23日まで3カ月間行われ、当時の予算50万円を投じて開催された。

中ノ島会場は約8万9千100平方メートルの敷地に産業貿易館、文明発祥館、演芸館などが建ち並び、県内外から連日多数の見物客が訪れた。長崎市では観光博覧会を盛り上げるために、8年から10年にかけて地元の新聞社やレコード店などがタイアップし、博覧会にちなむ歌を作られた。

長崎商工会議所 WEB サイト「130年の歩み 6.国際産業観光博覧会の開幕」、

長崎県観光・宿泊ガイド WEB サイト「あっ！と長崎 WEB マガジン ナガジン」－「長崎観光博覧会のころ」より
たけだごいち

●**武田五一 [1872年－1938年]**：「関西建築界の父」とも言われる、ヨーロッパの新しいデザインを日本に紹介した日本の建築家。京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）図案科や京都帝国大学（現・京都大学）に工学部建築学科を創立。国会議事堂建設。法隆寺、平等院などの古建築修復にも関わりが深い。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』武田五一 より

○資料

- [1] 長崎県 WEB サイト「文化財の広場」－「長崎県の文化財」－
「国道三四号 一之橋・中之橋・鎮西橋」
- [2][4] 文化庁 WEB サイト「国指定文化財等」－「国道三四号一之橋」
- [3] 長崎県『DOVOC 通信 No.27（平成27年11月）「長崎県の土木遺産第8回
国道34号線の3橋－長崎市の入口を飾る昭和初期の秀逸なコンクリートアーチ
橋－長崎大学名誉教授 岡林隆敏』
- [5][6] 文化庁 WEB サイト「国指定文化財等」－「国道三四号中之橋」
- [7]～[10] 文化庁 WEB サイト「国指定文化財等」－「国道三四号鎮西橋」

長崎の「母なる川」中島川に架かる石橋群

○資料

- [1] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年
[2][4] 山口祐造『石橋は生きている』葦書房 1992年
[3] 長崎県 WEB サイト
<https://www.pref.nagasaki.jp/kasen/tankennaga/kouzui/12kouzui.htm>
[5] 長崎県 WEB サイト「長崎県河川課」－
「長崎大水害 30年だより Vol.9(ながさきの水辺)」
[6] 川口栄二『濁流 雨に消えた 299人』講談社 1985年

中島川の石橋の架設年表

●**馬場利重[?－1657年]**：幕臣。將軍徳川秀忠につかえ、目付などをつとめ、寛永13年長崎奉行となる。出島の完成によりポルトガル人を收容。1614年島原の乱では板倉重昌にしたがい、原城を攻めた。通称は三郎左衛門。中島川の石橋群では、唯一南石橋を長崎奉行所として架設。南石橋は、茂木街道－島原－島津藩に通ずる要路の一端であったためかといわれている。

講談社デジタル版 日本人名大辞典+Plus、

山口 祐造『九州の石橋をたずねて(後編)』より

●**西道仙[1836－1913年]**：幕末-明治時代の医師、教育者。長崎で医業をひらき、明治5年同地に^{けいりん}瓊林学館を創設し、子弟を教育。また長崎文庫を創立して長崎の古文書を収集。のち「長崎新聞」「長崎自由新聞」を発刊した。

道仙は、眼鏡橋をはじめ、長崎市中百余りの橋に名前をつけた名付け親であり、1881(明治14)年、当時長崎区常置委員を務めていた道仙に常置委員会が一任。道仙は様々なことを熟慮のうえ命名した。名付け親といっても、道仙が独断で決めたのではなく、眼鏡橋でいえば、それまで「眼鏡橋」「酒屋町橋」などと呼ばれていたものを統一命名したような例も数多い。

現存する中島川石橋群19橋のうち、「一覽橋」「榎津橋」「古川橋」「桃溪橋」「阿弥陀橋」の6橋がこの統一命名。「大手橋」「玉帯橋」「高麗橋」「万橋」「魚市橋」「編笠橋」「袋橋」の7橋は道仙が町名や時代背景などにちなみ命名している。

講談社デジタル版 日本人名大辞典+Plus

長崎 WEB マガジンナガジン WEB サイト「発見!長崎の歩き方」－「先覚者、西道仙という人」より

○資料

- [1][2][4] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年
[3] 山口祐造『石橋は生きている』葦書房 1992年

桃溪橋

●^{ぼくい}ト意 [1607-1698年]: 日本名は永島仁左衛門。祖は中国南京出身。曾祖父の韓完頓は、博多に渡り、唐織の名人であった。祖父の韓元は、佐賀の小城に移住し、日本名(永島)を名乗った。父の永島仁左衛門・大承は1605年に長崎に移住。ト意は字で名は^{きんそく}勤息といい、晩年に僧となった。ト意は信仰が厚く、1680(延宝8)年、桃溪橋の側に地藏堂を建立、石地藏を祀り、さらに1696(元禄9)年、不動明王の石像を祀る。桃溪橋を架ける二年前に、その付近の川「もものき川」両岸に石垣をつくっており、桃溪橋を架けたときは、73歳であった。

なお、桃溪橋近くにある、月桂山・光雲寺(出来大工町)山門入口には、ト意和尚の偉業を称え民衆がお金を出し合って造ったと言われるト意地藏が祀られている。

長崎んことばかたらんば WEB サイト「桃溪橋とト意」、

宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』より

○資料

- [1][4] 長崎県 WEB サイト「まちづくり」－「都市計画・国土利用」－
「美しい景観形成」－「桃溪橋」
- [2] 長崎 WEB マガジン ナガジン WEB サイト「発見!長崎の歩き方」－
「石橋が連なる中島川沿いを歩こう 3.桃溪橋～高麗橋～阿弥陀橋～
中通り側の復路を歩く」
- [3] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年

大井手橋・編笠橋・古町橋・一覽橋・芋原・東新橋・魚市橋

●^{ぎぼし}擬宝珠: 建物の高欄や橋の欄干の柱頭部を飾る宝珠。形は宝珠形の頭部と、それに接続する円筒形の胴部から成り、多くは青銅製で木製の柱の上にかぶせる。

ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典より

●**長崎ぶらぶら節**: 江戸時代の初期から明治初期にかけて長崎市内を中心に歌われた作者不詳のお座敷唄で、昭和初期にレコード化され全国に知られるようになり、長崎くんちの本踊に欠かせない長崎を代表する民謡となった。歌詞には長崎の風俗・風習・時事が歌い込まれ、時代とともに付け加られて、市井で生まれた多様な歌詞が伝承されている。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』長崎ぶらぶら節 より

●^{こながい}諫早市小長井町の帆崎の安山岩: 長崎と佐賀の県境に位置する小長井町で産出される^{ほざきいし}「帆崎石」は大阪城の建築にも使われている良質な石である。

諫早市商工会 WEB サイト「地域の紹介 小長井町」より

●**高一覧[1603-1666年]**：福建省出身の父を持つ鹿児島生まれ。1618年に本国明へ帰り、諸方を遊歴。1629年日本に渡来し、1641から1659年まで唐通事を勤める。父の商売を手伝う傍ら、長崎奉行所の要人と通じた。中国人の中では、知力、財力を兼ね備えた有力者となり、一覧橋と大手橋を架設。日本名を「深見久兵衛」と名乗った。

宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年、

山口 祐造『九州の石橋をたずねて(後編)』より

○資料

- [1] 長崎 WEB マガジン ナガジン WEB サイト「発見！長崎の歩き方」－
「石橋が連なる中島川を歩こう」
- [2][4] 九州地域づくり協会『プロジェクト九州IV人と技術と情熱の物語
(第2節「眼鏡橋」は残った 河川改修と現地保存)』2014年
- [3] 山口祐造『石橋は生きている』葦書房 1992年
- [5][10][14][18][22][26][31] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』
長崎文献社 1977年
- [6][11][15][19][23][27][32] 山口祐造『石橋物語<上巻>』
土木施工管理技術研究会 1978年
- [7][8][12][16][20][24][28][30][33] 長崎 WEB マガジン ナガジン WEB サイト
「発見！長崎の歩き方」－「石橋が連なる中島川沿いを歩こう 2.魚市橋～東新橋
～すすきはら橋～一覧橋～古町橋～編笠橋～大井手橋」
- [9][13][17][21][25][29]長崎市土木部
『中島川石橋群橋梁災害復旧工事』長崎市 1987年

眼鏡橋

●**角閃石**：重要な造岩鉱物の一群で、100種類以上知られている。日本で産出するのは約30種類である。角閃石の特徴は、柱と平行に発達する2方向の劈開（結晶が、ある特定の平面に平行に割れること）である小学館日本大百科全書、小学館デジタル大辞泉より

●**天川漆喰**：天川土（長崎地方で産出される安山岩が風化した土で、石灰を加えて水で練ると硬化する性質をもつ）を用いた漆喰。

ハウジーWEBサイト「たたき（三和土）」－「天川土」より

●**暗渠**：覆いをしたり地下に設けたりして、外から見えないようになっている水路。（⇔明渠）

三省堂大辞林第三版 より

●**末次一族**：末次平蔵の一族。末次平蔵は、江戸初期の海外貿易家。長崎の人。名は政直。南洋各地との朱印船貿易で巨富を築き、のち、長崎代官となった。オランダ人からアーチ（円周率）の技術を習得したといわれている。

小学館デジタル大辞泉、山口祐造『石橋物語<上巻>』より

○資料

- [1] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年
- [2] 日本の石橋を守る会 WEB サイト「日本のめがね橋一覧表 長崎県」
- [3] ニッポン旅マガジン WEB サイト「その他」－「日本三大」－「日本三名橋とは!？」
- [4] 山口祐造『石橋物語<上巻>』土木施工管理技術研究会 1978年
- [5][9][4][15] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年
- [6][10][11] 建設コンサルタンツ協会誌 『Civil engineering consultant vol.234
2007年1月「特集 土木遺産(5)日本の国づくりの心 石橋のルーツ
「長崎眼鏡橋」荒井 裕則著』
- [7][8][9][14] 九州地域づくり協会『プロジェクト九州IV人と技術と情熱の物語
(第2節「眼鏡橋」は残った 河川改修と現地保存)』2014年
- [12] 九州地方計画協会
『水辺だより 1994年 SPRING「九州の川紀行-長崎県 中島川 岬 茫洋著』
- [13] 長崎県 WEB サイト「長崎県河川課」－
「長崎大水害30年だより Vol.14(ながさきの水辺)」
- [16] 山口祐造『石橋物語<上巻>』土木施工管理技術研究会 1978年
- [17] 長崎市公式観光サイトあっ!とながさき WEB サイト
「長崎ランタンフェスティバル」
- [18] 長崎市公式観光サイトあっ!とながさき WEB サイト「眼鏡橋」
- [19] ニッポン旅マガジン WEB サイト「県別エリア別」－「42 長崎県」－「眼鏡橋」

袋橋

○資料

- [1][3] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年
- [2] 日本の石橋を守る会 WEB サイト「日本のめがね橋一覧表 長崎県」
- [4] 建設コンサルタンツ協会誌 『Civil engineering consultant vol.234
2007年1月「特集 土木遺産(5)日本の国づくりの心 石橋のルーツ「長崎眼鏡
橋」荒井 裕則著』

[5] 朝日新聞デジタル WEB サイト

「長崎」袋橋が車両通行止め 石橋の保存優先 (2015年10月7日)

アーチ式の石橋に憑りつかれた男の話

●**曲がり尺**：大工・建具職人などが用いる直角に曲がった金属製の物差し。表には実寸(表目)の、裏にはその $\sqrt{2}$ 倍(角目)、 $1/\pi$ 倍(丸目)の目盛りがきざまれている。(曲尺ともいう。)

三省堂大辞林第三版 より

○資料

- [1] 山口祐造『石橋物語<上巻>』土木施工管理技術研究会 1978年
- [2] 熊本国府高等学校パソコン同好会 WEB サイト「肥後の石橋」「肥後の石工とは」
- [3] 熊本県 WEB サイト「分類から探す」－「遺産」－「石橋のふるさと」

アーチ式石橋の造り方

○資料

- [1] 熊本国府高等学校パソコン同好会 WEB サイト「肥後の石橋」－「アーチ式石橋の架け方」
- [2] ミツカン水のセンターWEB サイト「水の文化センターの活動」－「機関誌『水の文化』」－「機関誌 47号」－「つなぐ橋(石橋・眼鏡橋のある風景)」

常盤橋・賑橋・万橋

●**魏之琰**：ぎしえん福建省の人で、兄の魏毓禎いくていと共に現在のベトナムに行き、東京長崎間の貿易船を動かした。長崎に移り住み、子孫は日本姓を名乗った。

宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』より

●**何高材**[1597 - 1671年]：がこうざい福建省の人であり、崇福寺の有力檀家で、大雄宝殿(国宝)を寄進し、清水寺本堂(現存)を寄進した。

宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』より

●**金屋喜右衛門**：京都から長崎に商いで来ていた喜右衛門の付き人の市平が喜右衛門が登楼していた遊女屋の主人を殺害してしまい、斬罪を受けたことによる免罪として、金10貫ほど出し、萬町橋(現在の万橋)を架けることで贖罪したという。

宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』より

○資料

- [1][4][6][7] 宮田安『長崎おもしろ草 第4巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977年
- [2][5] 山口祐造『石橋物語<上巻>』土木施工管理技術研究会 1978年
- [3] 長崎市 道路公園部 道路維持課
『長崎市 橋梁長寿命化修繕計画』平成22年2月
- [8] 公益財団法人日本デザイン振興会
Good Design Award WEB サイト「万橋 [長崎県長崎市賑町・万屋町地内]」
- [9] 九州あちこち歴史散歩 WEB サイト「★長崎くんち 2013(6)鯨の潮吹き(万屋町)」

鍍橋

●**本木昌造[1824 - 1875年]**：日本における活版印刷業の創始者。長崎の乙名北島家に生まれ、オランダ通詞（オランダ語の通訳は阿蘭陀通詞、中国語の通訳を唐通事とよぶ）本木家の養子（6代目）となる。1855年長崎に活字版摺立所が創立された折、その取扱掛となり、蘭書の覆刻を行う。さらに出島オランダ印刷所に勤務。1860年長崎製鉄所御用掛に転職、船長となり海上勤務。1869年学塾を開き、その維持費を得るため活版印刷所を創設。その事業は友人平野富二によって継承された。

平凡社百科事典マイペディア より

●**1万6千両**：江戸時代の通貨で、1両は現在の18万円から22万円といわれるため、28億8千万円から35億2千万円かと考えられる。

日本銀行 高知支店 WEB サイト「知ろう！楽しもう！土佐のお金と日銀>坂本龍馬とおかね」より

●**三菱社**：海運業を主とした三菱商會をたちあげ、のちの三菱財閥の創始者となる岩崎弥太郎が、長崎造船局を国から借り受け、長崎造船所と改称して造船事業に乗り出したことから始まり、弥太郎の弟である岩崎弥之助により1884（明治17）年に創業された。1934（昭和9）年に三菱重工業と改称され、日本最大級の機械メーカーとなった。

フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』岩崎弥太郎、三菱重工業、三菱重工長崎造船所より

○資料

- [1] 中日本建設コンサルタント株式会社 WEB サイト「島田技術顧問」－
「FR42:川を渡る橋・長崎」
<https://www.nakanihon.co.jp/gijyutsu/Shimada/RiverAndBridge/FR42NS.pdf>
- [2] 長崎市広報広聴課『ながさき自由研究所』長崎市 2013年4月
- [3] 長崎新聞社『長崎県大百科事典』「くろがね橋」長崎新聞社 1984年
- [4] 長崎県 WEB サイト「文化財の広場」－「長崎県の文化財」－

- 「文化財ギャラリー」－「世界の中の長崎 ～長崎県の海外交流史と文化財～」
- [5][7] 丹羽漢吉『長崎おもしろ草 第2巻 史談切り抜き帳 第17話
「はした金ではかからない』長崎文献者 1977年
- [6] 長崎活版巡礼 WEB サイト「長崎が生んだ“印刷の父”本木昌造」
- [8] 浅井建爾『道と路がわかる辞典』日本実業出版社 2001年
- [9] 三菱重工 WEB サイト「企業情報」－「拠点一覧」－「長崎造船所」－
「沿革：長崎造船所」
- [10] ナガジン！WEB サイト
「コラム 長崎から見た近代化の道のり ～明治日本の産業革命～」
- [11] 長崎県 WEB サイト「文化財の広場」－「長崎県の文化財」－
「文化財ギャラリー」－「世界の中の長崎」
- [12] 九州の世界遺産 WEB サイト「世界遺産一覧」－「三菱長崎造船所 第三船渠」

中央橋

かさいし
●**笠石**：石や煉瓦などの塀や手すりの上にかぶせ、壁体の頂上を保護する石。かんむり 冠石ともいう。(石灯笼の上部の笠状の石を指すこともある。)

小学館デジタル大辞泉、三省堂大辞林第三版 より

○資料

- [1] [3] 長崎県河川課 WEB サイト「長崎大洪水 30年だより Vol.15」
- [2] 公益財団法人日本デザイン振興会 Good Design Award WEB サイト
「橋 および 周辺施設 [長崎 中央橋]」

出嶋橋

●**トラス橋**：トラスを使用した橋。(トラス：構造物の骨組の一形式。三角形を基本に、部材を回転自在のピンで結合させて部材の軸方向の抵抗力だけで荷重を受けるようにしてある。)

平凡社百科事典マイペディア より

●**旧出島神学校**：1878年(明治11年)建設された現存するわが国最古のキリスト教(プロテスタント)の神学校。

出島公式 WEB サイト「国指定史跡 出島 Dejima」－「建物紹介」より

●**中島川変流工事**：中島川による長崎港への土砂の堆積を解決するために、1882～1893年にかけて行われた第一次長崎港改良工事の一環。1878年明治政府のお雇い外国人であったオランダ人土木工師ヨハネス・デ・レーケによる調査が行われ、1885年

からは長崎水道の工事長として長崎県に招請された吉村長策が湾岸工事の指導に加わった。

中島川変流工事は、1887～1889年にかけて行われ、現在の出嶋橋から一つ上流にある長久橋付近から中島川の河道を屈曲させ、出島の北側を18～20mほど掘削して川幅を拡大するもので、軟弱な基盤であった河口付近に石積みの導流堤（オランダ式の粗朶沈床そだちんしょう＜強靱で弾性のある樹木の枝を束ね川底に配したもの＞が基礎に使われた）が築堤された。現在も中島川護岸には砂岩を用いた布積の石積護岸が残っており、明治期の港湾都市長崎の近代化をあらわす、貴重な近代化遺産とされている。

国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所 WEB サイト「川について知る」、DOVOC 通信ながさき No.23 (H26年7月)

「長崎の土木遺産第4回 中島川変流工事跡－第1次長崎湾改良工事－長崎大学名誉教授 岡林隆敏」より

○資料

[1][3][4] 土木学会 WEB サイト「選奨土木遺産」－

「西部地方の選奨土木遺産 出島橋」－「出島橋の解説シート」

[2][5] 長崎カステラ公式サイトカステラ文化館 WEB サイト「福砂屋の商標」

出島表門橋

●はしげた橋桁：橋脚（橋を支える柱。脚柱。）の上に架け渡して橋板（橋面）を支えるもの。

小学館デジタル大辞泉 より

○資料

[1][3] 長崎市『広報ながさき 2018.1 「130年の時を超えて 出島表門橋完成』』

[2] 公益財団法人日本デザイン振興会

Good Design Award WEB サイト－「歩道橋 [出島表門橋]」

[4] 山口美由紀『長崎文献社ブックレットNo. 出島つながる架け橋』

長崎文献社 2018年

[5] ながさき旅ネット WEB サイト

「ながさき旅ネット新聞特別号龍馬塾 vol.2 龍馬、長崎にくる！」

[6] 国指定史跡 出島 Dejima WEB サイト「出島」－「出島の歴史」

[7] 長崎市公式観光サイトあっ！とながさき－「出島」－「出島」－

「21世紀によみがえる出島」

[8][9][15][16] リクナビNEXTジャーナル WEB サイト「プロのシゴト観」> 「「2つの壁」を乗り越え、“出島”に再び橋を架ける！－出島表門橋架橋プロジェクト・渡邊竜一氏たちの挑戦」

- [10] ながさき旅ネット WEB サイト「観光スポット」－「ミニ出島（出島内）」
- [11] 長崎市公式観光サイトあっ!とながさき WEB サイト
「出島 世界に開かれた小さな人工島」
- [12] 長崎市公式観光サイトあっ!とながさき WEB サイト
「出島 出島はどうして造られたの？」
- [13] 藤井哲博 『長崎海軍伝習所 十九世紀東西文化の接点』
中央公論社〈中公新書〉1991年
- [14] ながさき旅ネット WEB サイト「観光スポット」－
「鎖国時代、世界に開かれた唯一の窓口 出島」
- [17] 法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科 WEB サイト
「お知らせ 2018/11/21」
- [18] 国指定史跡 出島 Dejima WEB サイト「出島」ホームページ－「出島の街並み」

西山ダム・高麗橋・拱橋・阿弥陀橋

●**グラバー邸**：幕末に来日した英国の武器商人トーマス＝グラバーが 1863 年、長崎南山手に完成させた邸宅（＝旧グラバー住宅）。日本人人工の手による日本最初の洋風住宅。2015 年「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の一つとして世界遺産（文化遺産）に登録された。
小学館デジタル大辞泉 より

●**池島正助**：麴屋町の傘鉾町人（長崎くんちで使われる傘鉾は、町の名譽を凝集した豪華なもので、江戸時代は親代々の富家に限ってつくられ、伝統と権威を重んじられた傘鉾を一手に引き受けて作った町人）で、家業の骨董屋を営んでいた豪商である。
長崎商工会議所 商工振興課 WEB サイト「長崎おもてなしの心と人」

宮田安『長崎おもしろ草 第 4 巻 中島川遠目鏡』より

●**園山善爾**^{ぜんじ} [1614-1694 年]：大阪に生まれ、17 歳の時長崎で唐人との商売で大いに利益を得る。38 歳の時に長崎に移住し、唐貿易によって巨利を得る。68 歳の時、飢饉時には人々に施粥し、74 歳で唐版の大蔵経を光永寺に納め、それを閲覧するための信庸庵を建てた。阿弥陀橋は 77 歳で架設。
宮田安『長崎おもしろ草 第 4 巻 中島川遠目鏡』より

○資料

- [1] 日本ダム協会 WEB サイト「ダム便覧」－「西山ダム（再）」
- [2][3][9][10] 宮田安『長崎おもしろ草 第 4 巻 中島川遠目鏡』長崎文献社 1977 年

- [4][5] 高麗橋説明板
- [6] 拱橋説明板
- [7] 文化庁 WEB サイト「国指定文化財等データベース」－
「長崎大学(旧長崎高等商業学校) 拱橋」
- [8] 長崎新聞 WEB サイト「身近な歴史遺産 佐賀 長崎「登録文化財」巡り
(2018/5/21)」
- [11] 長崎市 WEB サイト「市民生活」－「文化・スポーツ・おでかけ」－
「文化財・郷土芸能」－「中島川石橋群 (4 橋)」
- [12] 亀山社中記念館 WEB サイト「建物について」－「館内案内」
- [13] 上野撮影局跡説明板

制作：九州地域づくり協会 企画部企画課

初版 令和2年9月発行

第2版 令和4年1月発行